

新年のごあいさつ

若い世代が未来を切り拓けるように

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今年の干支は申。危難が去り福を招くという、縁起のよいいわれもあるようです。折しも、景気は緩やかな回復傾向にあります。また、全国的に人口減少社会といわれているなかで、本市は幸いにも若い世代の流入を中心として、総人口は漸増を続けており、合計特殊出生率も1.8と全国的にも高く、心強い状況にあります。しかし、今後の人口構造の変化、それに伴う税収の変化などを見据えると、決して楽観視することはできず、本市の未来を切り拓いていく子ども・若い世代のためにも、今こそ将来に亘り控える課題に対峙していくときであると考えております。

その一つが、公共施設の更新という課題。現在、どの自治体も直面しています。この課題にいち早く着目し、地域の実情に応じて総合的・計画的に対応を進めていくための動きに着手してまいりました。昨秋には民間事業者との連携による市庁舎の整備をスタートさせ、公共施設のあり方に関する地区説明会も実施し

常に考え、市民の付託に応えていく

新年あけましておめでとうございます。日ごろより市政ならびに市議会に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、これからの日本のかたちに関わる大きな問題が山積しております。国際的にはTPPや安全保障、中国経済などが、重くのしかかってきております。転じて国内に目を向けると、食品の異物混入、杭打ちや免震ゴムデータ改ざんといった、企業モラルの問題など、日本のよき国民性はどうか、という思いが強くなりました。

一方で、科学分野での2人のノーベル賞受賞は、うれしい快挙でした。また、スポーツの世界では、ラグビーの大躍進を始め、多くの種目が世界での活躍をめざし、私たちに夢と希望を与えてくれて